

『看護の日』 市民啓発街頭活動を実施しました！

『看護の日』は近代看護を築いたナイチンゲールの誕生日にちなみ5月12日に制定され、この日を含む1週間（今年は5月7日から5月13日まで）が看護週間とされています。

5月9日(火)に『看護の日』市民啓発街頭活動を行いました。この活動は『看護の日』のメインテーマである“看護の心をみんなの心に”の啓発を行うことで、一人ひとりが看護について関心を持ち、理解を深めるとともに、看護師を含めた医療従事者に対する感謝の気持ちを伝えることを目的に実施しています。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年度からは街頭活動を行わず、市内の病院をはじめとする関係機関の窓口などに啓発チラシ等を設置していただいていたのですが、新型コロナウイルスに関する規制が緩和されたことに伴い、4年ぶりに街頭活動を行いました。



当日は、市内3病院（益田赤十字病院・益田地域医療センター医師会病院・松ヶ丘病院）の現役の看護師等や県立石見高等看護学院の学生、関係者（市議会議員・益田の医療を守る市民の会会員・島根県看護協会益田支部職員・益田保健所職員・市職員）、あわせて47名が参加し、市内の商業施設3店舗の出入口で『看護の日』の啓発チラシと啓発グッズ等を約600人に手渡しました。

今後も益田圏域の医療体制を維持するため、関係機関と協働して住民の皆さんへ理解と協力を呼びかける活動を行なっていきます。

【問い合わせ先】市地域医療対策室 ☎ 31-0213

ふるさと 再発見

秦佐八郎博士顕彰委員会

世界初の化学療法剤「サルバルサン 606 号」開発者

はた さはちろう

秦 佐八郎 博士 ～生誕 150 年に寄せて～ VOL.1

益田市が誇る偉人、秦佐八郎博士の生誕 150 年に寄せて、その偉大な功績を隔月（全 5 回）で紹介します。第 1 回は、佐八郎の生い立ちを紹介します。

さまざまな医学史教科書で紹介されている日本人医学者、秦佐八郎（1873-1938）。彼が開発したサルバルサン 606 号は、のちの抗生物質や抗ウイルス薬に連なる化学療法剤の第 1 号であることが高く評価されています。

佐八郎は 1873 年（明治 6 年）美濃郡都茂村の山根道恭・ヒデの八男として生まれました。その後、医学校で学ぶことを約束に、都茂村の医師の秦徳太・ツタの養子となり、彼の医学への道が始まりました。勉強家であった佐八郎は、医学部生時代には教授も把握していない最新ドイツ語論文の知見を答案に書き「恐るべき生徒」と評されたことも。その勤勉さは後の化学療法剤の開発という偉業につながるものとなります。



エールリヒと秦 佐八郎

★次回（9月号）は、新しい千円札の肖像画に描かれる北里柴三郎や現在の千円札の肖像画に描かれている野口英世といった医学界の偉人とのつながりを紹介します。

【問い合わせ先】市協働のひとづくり推進課 ☎ 31-0621

「秦記念館」へ行ってみよう！



「秦記念館」では、秦佐八郎博士の偉業を偲び、博士が愛用した顕微鏡やサルバルサン 606 号のアンブルなど約 200 点の遺品等を展示しています。博士の人柄や功績などを知ることができる展示となっていますので、ぜひお越しください。

秦記念館（美都町都茂 807 番地） ☎ 52-2415

開館時間 10：00 ～ 16：00

休館日 毎週火・水曜日、祝日の翌日、年末年始

入館料 小学生 50 円、中高生 100 円、一般 200 円 ※ 15 名以上団体割引あり

詳しくはこちら！▶

